



たくさんの学びがあります

今年度も、子どもたちは学有林に出かけ、様々なことを学んできました。

5年生は、尖石縄文考古館見学の中で湧き上がった、「縄文人はどんな風に食事していたんだろう」という疑問から、食べ物をすくう、つかむ、刺すものを自分たちで作ろうと考えました。できるだけ、その頃の生活に近づけられるよう、学有林に出かけ、学有林で採取した枝木を使って、その場で加工することを試みました。野生の木の加工は、子どもの技術や知識だけでは難しいので、樹木に詳しい保護者の方に樹木のことや、その加工の仕方についてアドバイスをいただきながら夢中で取り組みました。



できた道具は、表面にひまわり油を塗りました。市販のものではなく、北山で農業を営む方たちが育てたひまわりの種取りのお手伝いをし、そのひまわり油を使わせていただきました。

道具作りを通して、縄文の生活に思いをはせた子どもたちは、学習の成果を紹介する場として、製作した道具を展示し、全校の児童や保護者に観てもらいました。



このように、地域の皆さんに支えられながら子どもたちは育っています。そして、学有林が多くの学びをもたらしてくれます。メルヘン街道から蓼科湖に向かう道沿いにある学有林は、昨年、今年と教育委員会と学校で下見をし、予算の許す範囲で少しずつ手入れをしてもらっています。学ぶ環境を整えてもらっています。

第4回学校運営協議会(2/10開催)協議内容

【令和7年度の活動の振り返り・学校評価・非違行為防止研修報告等について】

- ・学有林の整備について、教育委員会と連携をとって整備してほしい。また、地域へ情報が入ってこないのどのようように整備されているのか情報を発信してほしい。
- ・運動会では「自分たちのやりたい競技ができなかった」という声が多かった。子どもたちの意見を取り入れたり、地域を巻き込んだ競技を行ったりするなどの工夫をしてほしい。
- ・運動会では音花火をやめたことも住民と学校が遠のく一因となっている。子どもと地域に対する配慮がほしい。家庭と子どもが学校に求める楽しさとは何なのか。分析する必要がある。
- ・自分たちが子どもの頃は運動会が楽しくて楽しくて仕方がなかった。今は楽しさが少ない。イベント的な要素を入れるなど、もう少し派手にやるのがよいのではないか。
- ・中学校の部活地域移行アンケートでも子どもたちが求めているのは仲間と創り上げること、協力や一致団結だった。先生方の求める粘り強さとは差がある。このズレが小学校でもあるのではないか。
- ・運動会が学習の延長上にあるものではなく、祭りにどう戻していくか。
- ・中央高原は移住者が多い。顔見知りになるようなイベントを。運動会もこの地域に来てよかったと思えるにぎやかで楽しいものが織り込まれるとよい。
- ・PTAと学校との関わりとして、お手伝いをさせていただいた地域の方を運動会や音楽会に招待することを次年度の引継ぎとして考えている。借り物競走など、地域との関わりがもてるとよい。

- ・コミュニティ・スクールの考え方からすると、もう少し行事に地域の方が参加してもよい。
→学校長より「運動会は学習の一環として行っている。自分たちで考える、自分たちでつくるのが楽しい、という部分を次年度はさらに取り入れていきたい。」
- ・小学校では子どもたちの思い出に残ることをやりたい。今の時代にふさわしいことをやりたい。
- ・校長、教頭とだけでなく、先生方や子どもたちの代表を呼んで、話をする機会をもちたい。
- ・非違行為については先生方が自覚をもって取り組んでほしい。

【来年度の学校運営について】

- ・来年度の運営計画をぜひ実現させてほしい。
- ・北山には農業地域と観光地域がある。農業体験はやっているので観光地域の仕事を体験させたい。
- ・子どもが観光地域に出向かなくても、地元の人に話をして特別授業として学校に来てもらえばよい。
- ・湯川の河童の湯の体験や、この地域ならではのゴルフ体験もよいのではないかな。
- ・教育委員会からの卒業式、入学式の式辞が長すぎる。簡単でわかりやすく、親しみやすくしてほしい。
- ・コミュニティ・スクール会長が祝辞を述べるのがいいのではないかな。

地域・保護者の皆様には、日頃より子どもたちを温かく見守っていただき心より感謝申し上げます。近年の運動会は、記録的な猛暑から子どもたちの健康を守ることや、限られた時間で学習と行事を両立させるため、午前中みの半日開催が主流となっています。

かつてのような一日の賑わいは少なくなりますが、短時間に全力を尽くす子どもたちの輝く姿は変わりません。形は変わっても、ご覧いただく皆様に子どもたちの頑張りや成長を感じていただけるよう、子どもたちが生き生きと体を動かす姿を大事に取り組んで参ります。今後とも温かい応援をよろしくお願いいたします。

「シカと森と私たち」

蓼科在住のミュージーラーさんに、3～6年生に向けて「シカと森と私たち」という講演を行っていただきました。

この方は、自然体験学習に訪れた東京の小学生に講座を行っている方です。都会の子どもに教えることをも大事だが、まずは地元の子どもの自然の良さや現実を知ってほしいという思いから、講演をお申し出いただきました。

今森で何が起きているのかを伺い、鹿の食害等の問題を知る中で、森の役割や今ある森を保全していくことの大切さを考え合うことができました。北山の自然を知る貴重な機会となりました。



北山小美術館にお越しく下さい

1月の学校便りでもお伝えしましたが、作品募集の地域回覧をさせていただき、現在3名の方の作品を北山小美術館に展示しています。お一人は、本校卒業生の北部中生徒さんで、ジブリ作品の切り絵を展示しています。小学生の時に製作した想像力溢れる絵画や絵本も展示しています。もうお一人は、柏原にお住まいの両角さんで、「熊よけの鳴子」を展示しています。長年建設業に携わられ、その技術を活かした鳴子は、揺らすたびに温かみを感じる澄んだ音を奏でます。



もうお一人、蓼科中央高原にお住まいの中村さんの絵手紙も展示に加わりました。一冊に綴じられた作品集を開くと、「愛馬を追って 絵手紙100日マラソン」とあります。1冊全てが愛馬の絵手紙で埋め尽くされています。筋肉質な馬の力強さ、優しいまなざし、豊かな表情やしぐさからは、愛馬へのあふれる程の愛情が伝わってきます。

そのような作品をご覧になり、地域の方が学校に足を運んでくださっています。ぜひ、お気軽にお越しいただければと思います。

